

International GAP（国際的適正農業規範）対応の 食料管理専門職業人の養成

ニュースレター No.3 (2012.10.01)

発行：GAP 事業推進室 TEL/FAX：0985-58-7165 E-mail：muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp URL：http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/

徹底解剖 GAP 認証農場のすべて

木花フィールド（農場）は2011年12月13日、大学農場としては日本で初めてJGAP認証（JGAP青果物2010）を取得しました。今後は、GAP教育に活用される予定です。今回は、そのような“GAP認証農場”の見どころを徹底的に紹介します。



図 農場管理棟周辺

GAP 実習の中核施設

学生に、安全・安心な青果物生産の現場実習を体験させるための2連棟硬質ハウスを、本事業で建設（図中①）。2種類の作型を設定でき、暖房設備、温度管理システムが完備されています。現在、GAPの手法に従った学生実習を行っています。



土を守り作物を守る

土は農業生産にとってとても大切なもの。この土壌の流出を防ぐため、流出しやすいところには不耕起地帯を設置しています（②）。また、近年ひどくなってきたイノシシや猿による被害を防ぐため、圃場の周囲に防獣ネットを設置しています。

このように、生産基盤や生産物を守るために、さまざまな工夫が行われています。

事故を未然に防ぐ

安全な農産物は安全な作業から。作業員や見学者の事故を未然に防ぐため、圃場周囲の電気柵や崖の周辺など危険なところに、誰が見ても分かるような看板を設置して、注意を促しています（③）。



農薬は徹底的に管理

農薬保管庫の鍵は厳重に管理（④）。誰でも入れるわけではありません。また農薬は誤用しないことが重要。作物ごとに使用している農薬が決まっています。適応外の使用を防ぐために、農薬は使用担当者ごとに責任をもって管理しています。農薬保管棚の中にも工夫が。万が一農薬が漏れた場合も大丈夫。トレーでそれを受け止めるようにしています。農薬どうしが混ざって反応するといった事故の危険を減らすため、農薬の種類によって保管する場所を分ける工夫もしています。

農具一つ一つも大切に

学生実習で使用するため、この農場には同じ農具が数多くあります。これらの農具は1本ずつに番号を付け、農具庫で大切に管理（⑤）。収納場所も1本ずつ決められています。これで実習後に農具が紛失することを防げます。また農具庫は、常に整理整頓されたきれいな状態を保つことができます。



農薬用機械は分けて管理

農薬散布用の機械は、他とは分けて管理しています（⑥）。これにより、他の農業機械が農薬で汚染されることを防いでいます。



整然と並ぶ農業機械

農場では同じ機械を多くの人が使います。そこで、機械ごとに収納する場所を分かりやすく表示し、整理整頓しやすくしています(⑦)。また、機械をぶつけやすい柱などにはトラテープを貼って、注意を促しています。



薬散機の洗浄はココ

農薬は圃場や環境に影響を与えるので、農薬散布機の洗浄にも気を使います。できるだけ影響が少ない場所に専用の洗浄場所を設けています(⑧)。また、機械の洗浄不足による残留農薬事故も要注意。洗浄手順や方法をしっかり決めて、事故を防いでいます。



【お問い合わせ】GAP事業推進室

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1
宮崎大学農学部 (N708 号室)
PHONE/FAX : 0985-58-7165
E-mail : muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp
URL : <http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/>

『International GAP 対応の食料管理専門職業人の養成』ニュースレターは、宮崎大学の人の養成の取り組みを広く紹介するために、農業法人や食品関連企業などの関係者に配信しています。

このニュースの配信を希望される方を募集中です。GAP 事業推進室までご連絡下さい。

農薬の通り道

作業場では、収穫物を入れるコンテナを、その種類ごとに整理整頓(⑨)。それぞれ片付ける場所も明確に表示してあるので、誰でも正しく片付けられます。ここで気を付けなければならないのは、農薬と収穫物が接近してしまうこと。収穫物に農薬が付着したらたいへんです。そこで、農薬保管庫から農薬を出し入れするルートをはっきり示して、農薬はその道以外は通りません。このような工夫で、農薬による汚染を最小限に抑えています。



最後が肝心

出荷前の農産物が最後に通る調製室は、とても重要な部屋(⑩)。パック詰めした農産物に異物が混入していたら、せっかくの商品が台無しです。このような事故を防ぐため、作業時は必ず帽子や手袋を着用し、アクセサリは外すなどの、“食の安全”のためのルールを決めて作業しています。



確かな変化が

GAP 認証を取得した農場では、作業者の“安全”に対する意識が向上し、確かに食の安全性が高まりました。また、作業のムダが減少しました。それでもまだ、ムダを省ける作業が残っています。農場では、日頃のミーティングで、常に改善にチャレンジ。木花フィールド(農場)は、今後もまだまだ進化していきます。



見学ポイント

- 1. GAPハウス**
International GAP (国際公正農業規範) 対応の食料管理専門職業人の養成、事業により建設されました。GAPに基づいた学生実習が行われています。
- 2. 圃場**
JGAPの管理点に基づいた木花フィールド(農場)により、土壌汚染を防ぐための不耕起除草の設置など、管理・出来がされています。
- 3. 作業室**
最少限でもわかるように電気給排水の周辺には注意喚起を行っています。
- 4. 農薬保管庫**
係ごとに管理をし、庫内では農薬が「防犯」された場合に備え、トレーの設置を農薬の取扱いによって規制を行っています。
- 5. 包装室**
学生実習などの使用後の農具の洗浄防止および管理整頓のために、各農具と収穫物にそれぞれ番号を付けています。
- 6. 肥料室**
農薬取扱い用機械を主に置き、他の農具類への農薬汚染を防いでいます。
- 7. 洗車室**
0%納税額をわかりやすく表示することで整理整頓を行っています。また、洗車スペースの区別もはっきりつけています。
- 8. 農産物洗浄場**
圃場の圃場や機械による農産物への農産物汚染を防いでいます。また、洗車方法も統一することにより洗浄不足による残留農薬事故を防いでいます。
- 9. 作業場**
コンテナの内側向け農産物を明確にし、整理整頓を行っています。また、農産物置き場からの移動は必ず片手で行うことにより、農具による汚染を防いでいます。
- 10. 調製室**
農産物入りを防ぐため、作業時の帽子より多袋の着用時のマスクを一歩外すなど、追加室内でのルールを定めています。

6 宮崎大学農学部 附属フィールド科学教育研究センター

JGAP 認証農場 登録番号 45000007

木花フィールド(農場) GAP見学マップ

木花フィールド(農場)のJGAP認証取得

木花フィールドは、2011年12月13日に、大学としては日本で初めてのJGAP認証を取得いたしました。宮崎大学では、2011年4月から「GAP認証を取得した附属農場」を活用した実践的な「International GAP (国際公正農業規範) 対応の食料管理専門職業人の養成」を目標とした学生実習を開始しています。GAP認証により、1. リスク管理体制が改善され、2. 農産物生産物の信頼性が高まる効果が期待されますが、第三者認証機関による認証には、農薬、肥料記録簿など情報類の整備と運用、作業工程や学生実習対応のルールづくり、土壌分析、肥料置き場・農産物置き場の徹底整理等の改善努力が必要でした。GAPは「適切で、効率的な農場管理」を実現するための手法であり、食品の安全確保などへ向けた適切な農業生産であったことを取引先や消費者に対して証明できることを表す基準です。大学農場における実習教育において、GAPを正しく活用することは極めて重要だと考えています。

木花フィールド(農場)では、GAPを学ぶ見学マップを作成しています。